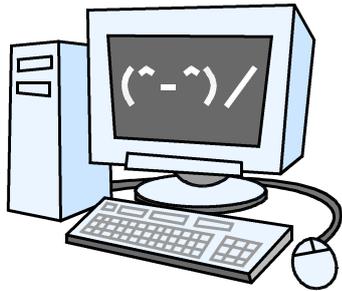


蔵地台地

～「夢」と「高森の心」を育み、
挑戦し続ける学校～
熊本県高森町立高森東学園義務教育学校
【学校便り No.5】H30.5.25 文責：塩村

将来を見据え、子どもたちに必要な力とは？ ～「次期学習指導要領」への移行にあたって～



平成32年度から、全国的に、新学習指導要領（教育課程の基準）に基づく教育がすべての小学校で実施されます。小学校3年生からの英語教育、プログラミング教育などが新たに導入されます。

本校では、すでに義務教育学校としての利点を生かし、ICT教育の充実、1年生からの英語教育の実施、6年生からの教科担任制（一部は5年生から）など、特色ある教育課程を実施しているところです。

今回の学習指導要領改訂では、**将来（2030年）を見据えた教育の充実**ということがポイントの1つです。2030年は、今の9年生が26、27歳になる頃ですが、その頃は、ますます変化の激しい時代になるでしょう。そのような時代を、今の子どもたちは生き抜いていかなければなりません。

有識者がまとめた報告書によると、2030年には以下のような状況が予測されるということです。

- 少子高齢化が加速し、65歳以上の割合が総人口の3割に達する。
- 生産年齢人口は、58%まで減少する。
- 子どもたちの65%が、今は存在していない職業に就く。
- 半数近くの仕事が自動化される可能性が高い。 など



さらに、先日、生産年齢人口の減少に伴い、人手不足が深刻な分野の労働力を補うため、政府は**外国人の受け入れを拡大**するとの報道がなされました。

【政府試算】

- 介護分野は毎年1万人増やす。
- 農業分野で約27,000人（2017年）→ 最大103,000人（2023年）に拡大
- 建設分野で約55,000人（2017年）→ 300,000人以上（2025年）に拡大 など



このように外国人労働者が増えると、高森町でも外国の人と出会う確率は一段と高まるでしょう。教室や職場にも、外国人が普通に存在する時代がやってくるかもしれません。

これからの子どもたちには、このような**急激な社会の変化に柔軟に対応していくための力**が必要です。例えば、外国語によるコミュニケーション能力や情報を活用できる能力は、今まで以上に日常的に求められるようになるでしょう。

本校では、子どもたちに将来必要な力を見据え、**日々の授業の質を向上**させるとともに、子どもたちの夢実現に向けた教育を展開してまいります。